

26 年度 氷見市教育総合センターだより 第 6 報

「実践を数値で検証」～学力向上拠点校の取組から～

今年度、県・市の学力向上拠点校として全校体制で取り組んだ 6 校（小学校 4 校・中学校 2 校）。学校教育における本丸である授業改善に加えて、「朝学習タイム」や「家庭学習」にも力を入れて取り組み成果を上げています。報告書から、一部抜粋して紹介します。

こんなに改善されました！ ～「実践事例 1 小学校の取組」から～

【3 年生以上の家庭学習時間の変容】

5 月 (Q. 休日 (土・日曜日等) 一日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(%))

学 年	4 時間以上	3～4 時間	2～3 時間	1～2 時間	1 時間以下	全くしない
3 年	0	3.7	22.2	48.2	22.2	3.7
4 年	0	0	15.8	42.1	42.1	0
5 年	0	0	0	44.1	47.1	8.8
6 年	0	3.7	0	66.7	25.9	3.7

12 月

学 年	4 時間以上	3～4 時間	2～3 時間	1～2 時間	1 時間以下	全くしない
3 年	3.8	11.1	11.1	55.5	18.5	0
4 年	5.3	5.3	10.5	73.6	5.3	0
5 年	0	9.1	15.2	24.2	48.5	3.0
6 年	3.8	3.7	14.8	48.1	29.6	0
全国平均 (6 年)	6.4	5.1	12.5	31.9	33.4	10.6

平日・休日に関わらず、毎日決まった時間学習をしようと働きかけ、アンケート調査（3 年生以上）を 5 月と 12 月に行った。その結果、どの学年でも 12 月は大幅に増加し、成果を上げることができた。

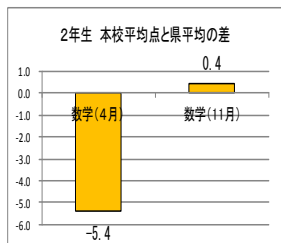
◇ ◇ ◇ 学校がとった対策 ◇ ◇ ◇

- ・毎月 1 週間の期間で「家庭学習がんばり週間」を実施し、中学校とは中間・期末テスト時に連携して実施。
- ・独自の「家庭学習がんばりカード」を作成し、毎日の学習時間やゲーム時間を記録。
- ・アンケート結果をその都度、学校便り等で保護者に知らせ、家庭学習に対する協力要請（啓発）。
- ・優れたノート例を各学年から集め、「自主学習ノート集」を作成し、全児童に配付。
- ・学年便りで、よいノート例を学級ごとに紹介。
- ・「家庭学習がんばりカード」を基に、学級ごとに家庭学習やゲーム時間についての話し合いを実施。

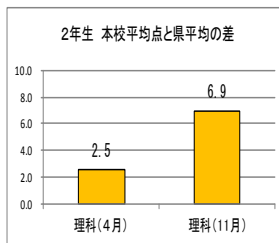
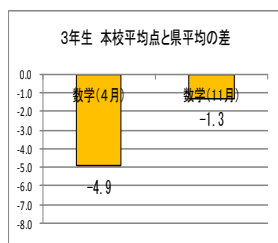
こんなに伸びました！ ～「実践事例 2 中学校の取組」から～

「生徒は確かな学力を身に付けたか」を検証する一つとして、中教研学力調査の結果で検証。4 月調査と 11 月調査の平均を県平均とを比べると、2・3 学年とも県平均を上回っているか、上回っていないかでも 11 月調査では、差が縮まっているものばかりであった。昨年度から継続して取り組んできた「とやま型学力向上プログラム(Ⅱ期)」を踏まえた「授業の改善」の推進と、今年度新たに取り組んだ「学習内容の振り返り強化」による成果と考えられる。

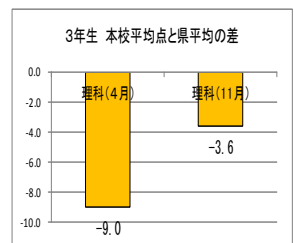
本校平均点と県平均の差



(例：数学科における 2 年生と 3 年生)



(例：理科における 2 年生と 3 年生)



上記要因のほかには、以下の全校体制での取組が挙げられる。

○朝学習タイムでの確認テストの実施や目的を明確にした家庭学習

- ・問題数を 10 問以内にするなど、負担のない出題により意欲化。
- ・授業中に行った小テストと同じ問題を確認テスト、定期考査で繰り返し出題。
- ・合格できなかった生徒は、個別指導を行い再テストを継続的に実施。
- ・教師が事前に出題内容を明示し、目標意識を大切に授業実践と家庭学習習慣の定着。
- ・家庭学習への意欲化を図るための、定期的な友達との取組方法についての話し合いの場の設定。

平成27年度入学説明会が平成26年12月上旬に各中学校で開催されました。説明会での資料には校区の実態に応じた内容が記載されています。その内容について紹介します。

共通している項目

- 入学式について 当日の日程、お願い（学用品の準備、当日の動き等）
入学予定人数
- 学校生活について 教育目標、目指す生徒像、教育課程、校時表等
部活動の種類と現在の所属人数、活動時間等
- 生徒心得 服装、頭髪、持ち物、シューズ、靴下、雨具、防寒具等
生活のきまり … 校区の小中学校で話し合われたきまり
(学習、休み時間の過ごし方、礼儀、欠席・遅刻・早退の手続き、
許可・届け・連絡等)
- 通学について 通学路、通学用自転車、ヘルメットについて
冬期の通学について、送迎と登下校時の駐車・通行に関して
- 学校集金について 集金額・内訳、集金方法（口座引き落としの手続き、口座振替依頼
書の記入要項等）、就学援助制度について

児童対象：授業見学・授業体験

保護者対象：親学びプログラム

どの中学校でも児童対象に授業見学あるいは授業体験が、保護者対象に「親学び」プログラムが計画・実施されています。

中学校名	授業見学	授業体験	親学びプログラム
南部		音楽	テーマ 「中学生になったら スマホ買って！」
北部		理科、英語、美術	
西部	国語、英語	音楽	
十三	国語、理科、社会		
灘浦		英語、音楽	
西條		数学、英語、音楽、美術、技・家	

<授業体験>

<親学び>



(美術)



(理科)



(技・家)



(グループ討議)

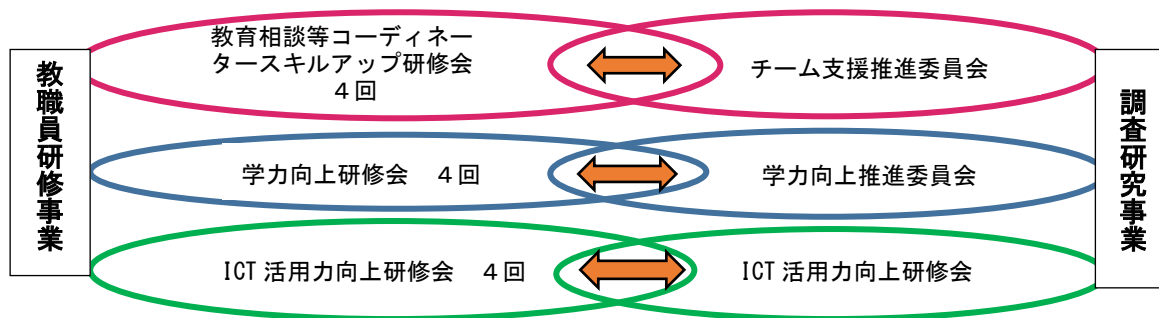
特色ある内容

入学説明会の資料から、他校でも参考となると思われる内容を紹介します。

- はじめに、3年生の合唱と生徒代表のあいさつ・学校説明を設定
- 平成26年度「学習の手引」第1学年用を全児童と保護者に配布
- 通学時・外出時に、特に注意してほしい危険箇所を地図入りで具体的に説明
- 年間の学校行事を月毎に記載

今年度の教育総合センターの各事業が、皆様のご理解とご協力の基、実施でき成果を出すことができました。感謝申し上げます。先日運営委員の方々に集まっていただき、平成26年度事業報告と平成27年度事業計画について協議していただきました。今年度の事業や来年度の事業について熱心に協議していただき貴重なご意見をいただきました。ここにその一部を紹介します。

<平成26年度 事業報告>



<研修会> 幼・保・小連携教育研修会、生徒指導研修会、ふるさと学習研修会、理科教育講座、仲間に学ぶ研修会、学校経営研修会

<推進事業> 心のケア事業、国際理解教育、学校評価推進事業、教育サービス事業、その他（氷見の学力向上フロンティア事業、「ひみっ子夢と希望」きらめき推進事業、氷見の教育基本方針推進事業

<平成27年度 事業について>

協議内容（一部）

- ふるさと学習資料（小学校・中学校併用）の作成について
 - ・従来の中学校版の使用頻度が低い傾向にあったので見直す必要がある。そこで、小学校社会科副読本の巻末に中学校の学習にも使えるものを載せて、小・中学校で活用できる冊子と電子黒板で活用できるデジタルコンテンツを作成したい。
 - ・平成27年度は、調査研究事業で「ふるさと学習資料」作成委員会を立ち上げて作成等を行う予定である。
- 道徳の教科化や小学校の外国語活動の教科化への対策について
 - ・道徳の教科化や5・6年生の外国語活動の教科化への対策として現場でその準備をしなければならないと思うが十分できないので、センターで調査研究や研修会を開催してほしい。
 - ・1～2回の研修会の開催を検討したい。
- 夏季休業中の研修について
 - ・夏季休業中に校内研修を行いたくても全員が集まる日がとれない。例えば月曜日に研修会を入れないなど夏季休業中に研修会を入れない曜日をつくってほしい。
 - ・センターは、平成25・26年度研修において、これまで午前・午後別々の2日の研修を1日に集約して研修会日の削減の工夫を行ってきた。講師の関係で月曜日になることがある。平成27年度研修会においては日数が多くならないよう考慮していきたい。
 - ・教育論文・教育実践記録の見方や書き方の研修を行ってほしい。
- 調査研究委員について
 - ・調査研究委員の負担が大きい。希望制にしたらどうか。
 - ・氷見の教育を高めるための調査研究なので、適任者を募りたい。学校の偏りや教科等の専門性も考慮している。各学校に打診があったとき、校務分掌上や教員的意思・意欲等の配慮や確認をしてほしい。



第2回「氷見市いじめ問題対策連絡協議会」開催

1月27日（火）

氷見市いじめ防止基本方針に基づき、法務局、児童相談所、警察、地域・民間団体、福祉の専門家、学校、教育委員会等、児童生徒を取り巻く関係者による見出しの協議会が開催されました。

事務局からは、①平成26年度におけるいじめ防止の取組について、②いじめ防止に関係する機関及び団体との更なる連携について、③平成27年度の「いじめ問題対策連絡協議会」の在り方について説明し、出席者から貴重な情報や意見をいただきました。

【連携について】

- ・学校ではSSW等との連携は進んできている。切迫した問題が起きたときに、外部機関等との日頃からの連携やつながりが重要になってくる。できることは今から始めたい。
- ・保護司会や人権擁護委員は、「人権教室」等が子供たちの実態を把握し理解を深める機会と捉えている。民生委員児童委員は、学校保育など子供と関わる関係者が集まり、研修会をしたり自由に意見交換をしたりして学習会を始めている。
- ・「学校は何ができるか」「何を願いますか」という視点から連携について検討するとき、「今、学校で何が起きているのか」という事例に基づく話し合いを行い、方向を探ることが大切である。

【ネットトラブルについて】

- ・児童生徒のネット使用状況の把握やそれによって派生してくる問題の認知が難しく、対応が後手に回る。ネットの使用実態を見ている保護者との協力が大切である。
- ・大人を超えるスピードでIT化が進み、人間関係づくりの難しい子供はネットで支えられている面がある。いじめを越えて犯罪に巻き込まれることもあり、喫緊の課題である。
- ・学校における指導、市P連の取組、地域での見守り等の情報の共有と対応が求められる。

図書紹介

新しく下記の図書を購入しましたので紹介します。

大人が見逃す子どもの危険信号 ―いじめ・自殺・不登校・非行・性・学業不振・友人関係―

[著者：東京福祉大学名誉学長 松原 達哉 発行：学事出版]

学校内や家庭内で発せられる子供の危険信号（SOS）に気付くことで様々な問題に対応できます。現在問題になっている青少年の行動を詳細に分析・研究しており、問題をもつ子供に対する、学校での指導法と家庭での対処法について記載されています。また、各問題行動の危険信号が具体的に列挙してあり参考になります。

国語授業のユニバーサルデザイン 全員が楽しく「わかる・できる」国語授業づくり

[著者：筑波大学附属小学校教諭 桂 聖 発行：東洋館出版]

国語の授業に特別支援教育の視点を取り入れれば、気になる子供だけでなく全員が楽しく「わかる・できる」ことに通じるという実践例や、具体的な国語の授業での問答や板書例を掲載してあります。

あなたの子供が「自立」した大人になるために

[著者：横浜上市市ヶ尾中学校校長 平川 理恵 発行：世界文化社]

女性初公立中学校民間人校長として、教育理念「自立貢献」を掲げて取り組んだ4年間の経験が記載されています。民間人としての経験や保護者の目から見た視点で教育・学校経営を見直し取り組まれています。学校をよくするヒントがあるかもしれません。

特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)

[文部科学省、国立教育政策研究所教育課程研究センター 発行：文溪堂]

平成25年7月に公表されたリーフレット版を基に、学級活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事の各内容について、指導のポイントや留意点などを実践事例とともに具体的に紹介してあります。特別活動の指導資料として活用できます。